

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	清水町
所属名	保健福祉課
担当者名	我 妻 康 広

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第 8 期介護保険事業計画に記載の内容				R5年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
清水町		現状、特定健診の令和4年度受診率は39.9%であり、前年度に比較し7.6ポイント上昇し過去最高値である。令和5年度受診率は令和6年秋まで確定しないが、健診料金の無料化や受診動奨奨強化の取組みを継続したことにより、見込み値で46.5%と受診率は上昇している。未受診者には個人通知や電話等で受診動奨を実施している。また、重症化予防の取組みについては、対象者に訪問等を通じて適切な受診動奨、保健指導を行い、生活習慣病の予防・悪化防止を図っている。 課題として、特定健診受診率は管内19市町村中、令和3年度19位、令和4年度16位と順位を上げたが、健康状態を把握しているのは対象者の半数さえ満たしていないため、生活習慣病予防としてより多くの人に特定健診を受診してもらうよう今後も積極的に受診動奨を行っていく必要がある。また、健康教育等を通して住民の健康意識を高めることも重要である。	生活習慣の改善を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療につなげるため、特定健診や各種がん検診を実施するとともに、受診動奨に努める。また、特定健診の無料化を継続し、受診しやすい体制を作る。健康教育を実施する。	未受診者への受診動奨強化により、特定健診受診者は過去5年間で最多であった。町内医療機関の協力もあり、町内医療機関で個別健診またはみなし健診を受診したのも過去最多であった。健診結果については、来所や訪問で直接会って返却し、その内容に関し説明をすることで、自身の健康状態を理解し、生活習慣を振り返ることで健康への意識が高まるように努めた。 また、各種がん検診の受診者数も例年並みであり、ターゲットを絞った受診動奨を継続する。	未受診者への受診動奨強化により、特定健診受診者は過去5年間で最多であった。町内医療機関の協力もあり、町内医療機関で個別健診またはみなし健診を受診したのも過去最多であった。健診結果については、来所や訪問で直接会って返却し、その内容に関し説明をすることで、自身の健康状態を理解し、生活習慣を振り返ることで健康への意識が高まるように努めた。 また、各種がん検診の受診者数も例年並みであり、ターゲットを絞った受診動奨を継続する。	○	健診受診は、医療機関通院者も含め生活習慣病やがんの早期発見・早期治療にとって重要であるため、今後も継続して訪問、電話、通知等で受診動奨を行う。また、併せて保健指導・栄養指導を行い、生活習慣病の重症化予防を図りながら、健康についての意識を高めていくことで将来の介護予防にもつなげていく必要がある。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	・老人クラブの数自体が減っていることから、実施回数と参加者数ともに減少しており、達成不可能な値であるため、目標設定の値を見直した。 ・1食量の食事を完食できていない人も多く、フレイル予防についての講話も取り入れていく必要がある。	元気で長生き料理教室健康寿命を目指すために必要な食生活について学習を行います。 ・学習会では栄養士とパセリの会の会員で分担し、食に関する講話を行い、1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供します。	料理教室 実施回数 令和3年度 4回 33人 令和4年度 9回 83人 令和5年度 9回 90人 (令和4年度実績 9回 83人) 感染症拡大防止のためティークアウトでの実施	元気で長生き教室 1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算し、お弁当を提供する。 料理教室 実施回数 令和5年度 10回 87人	○	令和2～3年度は、感染症予防対策の観点から教室の実施を中止することが続いていたが、令和4年度からは例年程度の参加者数に近づき、概ね予定通り実施することができた。 感染症予防のため外出頻度の減少や活動量の低下、それによる生活リズムの乱れ等で食リズムが崩れやすい傾向があるため、今後も各クラブの希望に沿いながら健康づくりに向け情報提供を行っている。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内においての高齢化の人口は15年間で1千万人以上増えた一方、全国の老人クラブの会員数は減少の一途をたどっています。清水町においてもそれは同様で、平成30年度に12クラブ427人の会員がいましたが、令和6年3月31日現在は10クラブ243人となっており深刻な課題となっています。 老人クラブは地域を基盤とする高齢者の自主的組織であり、活動内容は幅広く、日常の健康管理やボランティア等の社会奉仕活動、趣味やサークル活動の学習活動を展開していますが会員が増えないことによる高齢化、活動の停滞が進み、新しい活動に積極的に取り組めない現状があります。	老人クラブへの加入促進 個々の会員が生きがいを持って活動することができるよう、老人クラブへの加入促進を図ります。単位クラブの領域を超える高齢者の健康づくりとボランティア活動等の各種活動を支援するため、老人クラブ連合会へ補助金を交付します。	単位クラブ数 会員数 令和3年度 13団体 450人 令和4年度 13団体 450人 令和5年度 13団体 450人 (令和4年度実績 10団体 274人)	・令和6年3月31日現在の会員数～243人 ・地域福祉活動(健康体操、食生活改善指導、ふまねっ と講習 等)～10クラブ 年17回 ・社会奉仕活動(地域の清掃や花壇整備～随時、施設へのタオル寄贈～456枚)	△	(課題) 単位老人クラブ内では役員のなり手もおらず、クラブの維持そのものが困難となり、新しい活動に取り組むことができていない現状がある。 (対応策) 活動内容を周知、啓発する機会を作り、少しでも興味や関心を持ってもらえるように取り組む。
清水町	①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において少子高齢化が急速に進む中、清水町においても総人口が減少し高齢化が確実に進んでいます。このような中で、健康で働く意欲のある高齢者に活躍の場を提供するシルバー人材センターは、高齢者の知識、経験、技能をいかした就業の場を確保、提供することにより、高齢者の社会参加、生きがいや健康増進に寄与し、生活がいきいきとした地域社会づくりに貢献しています。 しかし、高齢者が増加しているにもかかわらず、同センターの会員数は減少傾向が見受けられ、新規会員の増強が喫緊の課題となっています。	シルバー人材センターの活動支援 清水町シルバー人材センターを通じて高齢者が働く機会と個人の経験や知識を生かす場を提供することにより、高齢者の生きがいづくりを支援します。介護福祉に関わる作業についても携わることができるような体制づくりに努めます。また、会員相互の交流を図るための機会を創出します。	シルバー人材センター 会員数 令和3年度 男性102人 女性59人 合計161人 令和4年度 男性105人 女性60人 合計165人 令和5年度 男性105人 女性60人 合計165人 (令和4年度実績 男性72人 女性48人 合計120人)	・令和6年3月31日現在の会員数～108人 ・事業実績～受注件数 342件、契約金額 65,444, 949円 ・健康管理教室、技術講習会～年間1回実施	△	(課題) シルバー人材センターは高齢者の健康増進や、生きがい創出に繋がる就業機会を提供する団体として地域に密着した事業を継続しているが、高齢者の増加にもかかわらず入会者の減少は著しい。高齢者の生活スタイルが多様化していることから、就業先としての選択肢とはならない現状も見られ、年々厳しい運営状況になっている。 (対応策) 高齢者の社会参加を促進していけるような多様な就業開拓、適切な円滑な就業機会を確保に積極的に取り組んでいく。